

令和5年度子ども子育て支援推進調査研究事業
「入院中のこどもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」の
中間整理について

令和5年度子ども子育て支援推進調査研究事業「入院中のこどもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」について、事業実施者（野村総合研究所）より中間整理が提出されました。

- ・「入院中のこどもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」中間整理

【照会先】

こども家庭庁成育局母子保健課
栗嶋、加藤
（代表電話）03(6771)8030
（直通電話）03(6859)0041

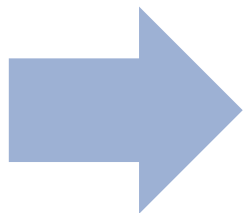
小児医療機関に対する付添いに関するヒアリング（12医療機関）結果まとめ

1. 家族の付添いに関する実態	家族の宿泊を伴う付添いの状況	■ 今回ヒアリングした医療機関において、こども病院は原則付添いなしの対応としていたが、こうした医療機関も含めて、 <u>付添い環境を改善するためには多くの課題がある一方で、さまざまな工夫を行う医療機関も見られた。</u>
	面会について	■ <u>コロナ禍で面会に関するルールが変わり、人数や面会時間の制限が入った医療機関が多い。</u> 特に、感染管理の観点から病児のきょうだいの面会を認めていないケースが多かったが、今後ガラス越しに面会できるような面会室を作る予定との回答もあった。
	家族に対する説明	■ 育児との境界線が難しいことから、付添いの際に <u>家族に担ってもらう役割についての説明までされているケースは少なかった。</u> ■ 説明は口頭で行うという例が多かったが、中には <u>パンフレットやVODを活用</u> している医療機関もあった。
	家族に求めるケア・分担	■ <u>家庭でも行う育児に関連する項目は家族、それ以外の医療行為は看護師が担う</u> という医療機関が多かったが、 <u>退院後の生活を見据え、服薬や機器の取り扱い等について看護師の指導のもと家族に行ってもらっている</u> という例も見られた。
2. 付添いを行う場合の工夫・体制	家族の睡眠環境	■ 付添い者の睡眠環境の改善のため、室内のソファベッドを使う、簡易ベッドを貸し出す、などの事例が見られた。 ■ 一部の医療機関においては、付添い者の睡眠時間の確保が難しい場合、 <u>日中の保育士等が勤務している時間帯に一時的にこどもを預かり、付添い者の休息の時間を確保する</u> といった対応を行っていた。
	家族の食事環境	■ <u>食事の提供を行っているのは3医療機関で、いずれも病院食（成人用常食）を提供している</u> というパターンだった。提供を行っていない医療機関では、食事の希望有無の確認や会計管理等の負荷から、実現は難しいとの回答が多かった。 ■ かつては提供していたが、コンビニ等院内で食事を調達できる設備の導入とともに、食事の提供を終了したというケースも見られた。
	その他家族への支援	■ 付添者の体調不良時や、疲労感・精神的ストレスが見られる際、 <u>医療機関側から声掛けし、一時的にこどもの預かりを行ったり、困りごとの内容に合わせて専門職による相談につないだり、受診勧奨を行ったりといった工夫</u> をしている例も見られた。
3. こども自身に対する支援・権利擁護の在り方	プライバシーへの配慮	■ 大部屋の場合、 <u>授乳者や思春期のこどもがいる場合に部屋割りに特に配慮する</u> といった対応を行っている例や、 <u>授乳時やオンラインでの授業参加時などに、カーテンの外に札を下げられるようにする</u> といった工夫が見られた。
4. 付添いがない場合の工夫・体制	こどもの安全確保の体制	■ ウォーキングカンファレンスを実施し、患児の特性や状態に応じた安全確保策がとられているか、複数人の目線で確認を行い、出入口のセンサーやサークルベッドの見直し等の対応をおこなった例も見られた。
	こどもと家族のコミュニケーション上の工夫	■ 一部の医療機関では、オンライン診療のシステムを活用し、家族との <u>オンライン面談の取組</u> を行っていた。看護師等が接続をサポートするケースもあるが、患者自身でビデオ電話をつないで家族とコミュニケーションをとっている様子も見られていた。
5. 理想／課題と求める支援について	課題	■ ほぼ全ての医療機関が、 <u>人員確保（看護師、保育士、看護補助者等）についての課題</u> を挙げていた。特に地方部の医療機関ほど、付添い家族への支援を充実させたいが、医療資源や専門職の数に限りがある中で、対応に苦慮していた。
	求める支援	■ 小児科は処置などへの対応に加え、心細さに対応するなど心理的なサポートにも人員を要するため、 <u>配置基準をより充実させてほしい、付添いなくてもこどもに安全な医療を提供するためには人員確保など診療報酬で点数を上げてもらわないと厳しい、</u> との意見があった。

これまでの議論の主なポイントと今後の進め方

これまでの議論の主なポイント

- 入院中のこどもに付添う家族等を感じる付添い環境の主な課題として、食事・睡眠環境や見守りに関することが挙げられる。こうした課題がある一方で、こどもには家族等と一緒にいる権利があるといった考えや、付添いに関する要件等が厳しくなることで結果的に患者家族等による付添いができなくなってしまうことを心配する声がある。
- 上記を踏まえ、病気のこどもやその家族等が安心して入院生活を送ることができるよう、入院付添いの環境を改善するための方策について検討が必要。
（※）宿泊を伴う付添いに加え、宿泊を伴わない面会についても類似の課題があり、対応を検討。
- なお、議論を進めるにあたり、以下の事項を原則とすべきとされた。
 - ・ こどもの安全・安心や医療の質の確保を前提とし、医療機関と家族等がお互い協力し合うパートナーシップが重要であること。
 - ・ 家族等の付添いにあたり、こども自身が希望や意見を言えるなど、こどもの権利を守ることも重要であること。また、年齢に応じた臨機応変な対応も重要であること。
 - ・ 医療機関の実態を踏まえる必要があること。



今後、全国の小児医療機関に対するアンケート及び追加のヒアリングを行い、付き添う家族等に対する具体的な支援内容や工夫点、課題等を把握するとともに、好事例等の情報を収集・整理